



風蝕・南瓜G 2009年 第19回富嶽ビエンナーレ展大賞 静岡新聞社蔵
能島芳史展より

特別陳列

能島芳史展 - 15世紀フランドル絵画からの展開 -

特別陳列

加賀藩の美術工芸

石川の名宝 - 国宝・重文・県文 -

- 主なコレクション展示
- 10月の企画展示室
- 10月前半の展覧会
俵屋宗達と琳派／琳派 様々な表現／加賀藩と寛永文化／
鴨居 玲 一蠶くー／工芸品にみる秋草
- ミュージアムレポート
- ミュージアムウィーク
- 10月の行事予定
- 所蔵品紹介

加賀藩の美術工芸

10月18日(金)～11月17日(日) 会期中無休

学芸員の眼

今回の展示作品では、まず「祭礼草紙」に注目いただきたいと思います。これは文字通り室町時代の祭礼の様子を描いたものですが、当時の風俗や習慣を知るうえで興味深い作品です。たとえば会所の様子を描いた場面には様々な飾りものや酒器、花器が描かれており、十五世紀当時の好みがよくわかります。

祭礼はハレの場ですが、この草紙を眺めると日本人の飾りへのこだわりが改めて気付かされます。この飾りの意匠が、室町時代から江戸時代に至る絵画や工芸にも用いられており、作品の位置付けを考える際の参考となります。修復が完了し、当館ではほぼ三十年ぶりの公開となる「祭礼草紙」、是非この機会にご鑑賞ください。

加賀藩の文化政策は、幕藩体制に屈従を強いられた藩の独自性を主張する重要かつ有効な方策でした。軍事力や政治力を全面に出せば幕府を刺激し、改易の危機に直面します。しかし文化という土俵の上ならば、幕府に正面から挑戦することができず、加賀藩三代藩主の前田利常は、幕府から様々な圧迫を受けた京都の後水尾天皇を模範として、質・量ともに幕府を凌ぐ文化政策を打ち出しました。そしてその政策は、儒教や博物学的に深化されて五代藩主前田綱紀に継承されました。

加賀藩の文化政策は、大きく収集と育成に大別されます。名品の収集は、大名の格式を対外的に印象付ける重要な意義を持っていました。前田家の収集は、日本の古筆や典籍類から、広く中国や西洋の文物にまで及んでいます。しかし、単に世界各地から名品を集めることにとど

まらず、藩経営の一環として美術工芸の育成事業を行っていた点に前田家の独自性があります。名工を招聘し、武具の制作や保守などで培われた技術の地盤を活用して、高い技術と洗練された美意識が融合した名作の数々が十七世紀を中心に加賀藩から生まれました。

今回の特別陳列では、収集された名品として「新猿楽記」、「祭礼草紙」、周文筆と伝えられる「四季山水図」、雪舟筆と伝えられる「四季花鳥図」(以上、重要文化財)を展示します。そして会期が日本伝統工芸展金沢展とも重なることから、加賀藩の美術工芸育成事業を象徴する重文「百工比照」から色漆類、羽織類絵図を展示します。

能島芳史展

— 15世紀フランドル絵画からの展開 —

10月18日(金)～11月17日(日) 会期中無休

学芸員の眼

白く美しい白亜地に描かれる巨大な南瓜。一目見ただけでは、描かれているものが南瓜とは気付かないと思います。余りにも巨大なのです。能島氏から「これは、10年から20年もの南瓜を描いたものです。」と聞いたときは、うかつにもそんな変わった南瓜があるのかと耳を疑いました。あらためて何うと十数個の南瓜を放置しておく、中のいくつかが、腐らず干からびていき、南瓜のミイラが出来上がるのだとのこと。なるほどと納得すると共に、それを百号なり二百号なりのキャンバス一杯に描くという発想が凄いと感じ入ったものでした。その南瓜をよく見ると、歯車や虫が窪みや割れ目に緻密に描かれています。ルーベで覗いたミクロの世界が巨大化され、不思議な世界が展開されています。

能島芳史氏は金沢美術工芸大学で油絵を学んだ後、15世紀フランドルの幻視の画家ヒエロニムス・ボツシュに魅せられて渡欧し、ベルギー王立ゲント美術大学修復科で深くフランドル絵画技法を研究・修得しました。在学中の三年間は、妖怪たちが潜むボツシュ作品の模写に没頭し、「大洪水の祭壇画」と「聖ヒエロニムス」を完成させています。

帰国後は一貫してフランドル技法を用い、白亜地と透明画法による幻想的な作品を描き続け、独自の世界を展開してきました。

近年モチーフとして描いているものは十年以上を経て三分の一以下のサイズに収縮しミイラ化した南瓜です。凝縮しねじまがった形の中に、作者は存在の不条理や混迷した現代社会の有り様を感じ取っているのです。南瓜の亀裂や窪みに歯車や昆虫を潜ませるのですが、それは、蝕まれ風化していく個の存在や、混迷した世界を暗喩す

るものです。

小さくミイラ化した南瓜が白亜地の大画面いっぱい描かれるという、現実の世界を超越し、物のサイズが意味を持たない能島氏の作品は、強烈な衝撃を鑑賞者に与えて止みません。そして、美しい絵肌と妖しくきらめく細部に目を惹きつける楽しみは他に変え難いものがあります。

本展では滞欧中の模写「聖ヒエロニムス」から最近作の南瓜作品まで、約二十点の作品により、能島氏の凝視を経て達する幻視と諧謔の世界をご堪能いただけます。

◆能島芳史氏講演会

十月二十日(日) 午後一時三十分

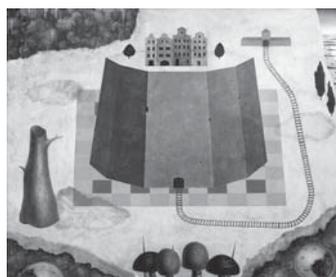
会場 美術館ホール 聴講無料

演題 「これまでの歩み

ーボツシュに魅せられてー



ボツシュ作「聖ヒエロニムス」
模写



風蝕 WA 2006年 F130

主な展示作品

10月18日(金)～11月17日(日) 会期中無休

- 第3展示室
【彫刻】
畝村直久「女(ポニーテール)」
高田博厚「腰かける女」
木戸 修「SPIRAL-3 TUKI」
- 第5展示室
【近現代工芸】
松田権六「蒔絵勇馬図平卓」
富本憲吉「染付色絵菱文角箱(大)(小)」
二塚長生「友禪着物 波動」
- 第6展示室
【日本画】
稲元 実「21stc 水の星」
梶野玄山「山水図」
鹿見喜陌「街に」



街に



蒔絵勇馬図平卓



女(ポニーテール)

石川の名宝

10月18日(金)～11月17日(日) 会期中無休

石川県には、歴史のあるいは芸術的に優れた貴重な文化財が数多く伝えられています。これは、江戸時代に加賀藩主となった前田家の文化的施策が大きな要因の一つであり、その歴史的背景を基盤とするところの石川の文化風土は、芸術・文化全般に対する関心の高さというかたちで今日に引き継がれています。

能登地区は日本海の海上交通により、大陸との接触が早くから行われたため、歴史的な風土や文化を色濃く物語るものを中心とした文化財が残されています。一方、加賀地区では、古代・中世において白山信仰の中心であったことや、中央の社寺の荘園として開かれたことにより、それを反映する文化財が残っています。また、前田家に加賀藩主となって文化の展開をみせて以降は、前田家を中心

とする収集・育成された文化財が伝えられています。

当館ではそれらの文化財、中でも美術工芸品を中心に収集活動を行い、また保存と活用を目的として県内の社寺や個人の方々から多くの寄託を受けています。本展は、こうした石川県の貴重な文化遺産の一端を知っていただくとともに、文化財保護法に定める国宝・重要文化財の公開を目的として開催するものです。

石川県には現在二件の国宝が所在しています。当館が所蔵する「色絵雉香炉」と白山比咩神社所蔵の「剣 銘吉光」です。その二件の国宝を同時に見ることのできるまたとない展覧です。この機会をぜひお見逃し無く。



国宝 剣 銘吉光

石川県内の水墨画愛好家団体を網羅した統一展です。近年愛好者の増加と作品の向上が著しい県水墨画界の結束を図るとともに、愛好者拡大を目指すねらいの展覧会で、作品は広く愛好者から公募して審査。入選、入賞作に委嘱作品も併せて展示し、水墨画の魅力を伝えるものです。

◇入場料

一般、大・高生／五〇〇円(四〇〇円)
中学生以下無料()内は前売料金

※当館友の会会員は、会員証提示により前売料金

◇連絡先

金沢市南町二番一号 北國新聞社事業局内
「第二十三回 北國水墨画展」事務局
電話／〇七六一二六〇―三三八一

今月の企画展示室
第7～9展示室

第23回 北國水墨画展

10月18日(金)～10月21日(月) 会期中無休

1F企画展示室

企画展

俵屋宗達と琳派

ご好評をいただいている本展も会期後半となり、国宝「蓮池水禽図」(俵屋宗達筆)、重要文化財「秋草図」(俵屋宗雪筆)、同「風神雷神図」(尾形光琳筆)などの人気の作品が展示替となりました。後半では重要文化財「竹梅図」(尾形光琳筆)に注目いただきたいと思えます。この作品は光琳最晩年の名品で、光琳が私淑した宗達の料紙装飾の表現を見事に水墨に翻案しています。第9展示室の最後を飾るこの作品は、「俵屋宗達と琳派」という本展のタイトルを象徴するものといえます。

また、本展では充実した内容の図録を作成しています。講座、ギャラリートークの関連イベントとあわせて、ご鑑賞の手引きとして活用いただければ幸いです。



重文 尾形光琳「竹梅図」 東京国立博物館蔵

十月前半の展覧会

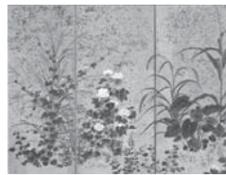
9月13日(金)～10月14日(月・祝) 会期中無休

企画展

「俵屋宗達と琳派」に関連して

「俵屋宗達と琳派」は、琳派の神髄にスポットを当てるといふ趣旨で、俵屋宗達から尾形光琳の絵画を中心とした構成としました。そこで第2展示室では関連展示として、特に加賀地方で琳派の「定番」ともいえる草花図屏風の優品と、光琳の漆芸、尾形乾山の陶芸を館蔵品、寄託品の中から選んで展示しています。幅広いジャンルに及ぶ琳派芸術の様々な表現は、企画展で展示している作品と共通する部分があれば、少し違う部分もあります。

その中で様式、デザインとして誰もが琳派と実感できる要素があります。琳派が広く愛好されているのは、その直感的な親しみやすさではないでしょうか。企画展とあわせて、琳派の様々な味わいをご堪能いただければ幸いです。



「四季草花図」(部分) 江戸17世紀

前回の美術館だよりも紹介しましたように、大藩どころかも外様大名という立場の加賀藩前田家が、幕藩体制という新しい時代のなかで加賀藩の存在意義を示す方法として求めたものが「文化政策」でした。文化とは人間の精神世界の営みであり、その根幹は不変のものであるはずなのですが、殊に社会の大きな変革時には、時としてそうした道標を見失いがちとなります。そこで「学ぶ」ことが重要な意味を持つてきます。前田家によって築かれた伝統としての文化は「学ぶ」ことであり、その範としたのが後水尾天皇を中心とした京の都の「寛永文化」でした。文化の創造はいつの時代も「学ぶ」ことであり、わたしたちは「前田家の文化」を次世代へ伝えていく使命があるように思われます。

後水尾天皇御宸翰 忍 江戸17世紀

第2展示室

特別陳列

加賀藩と寛永文化

一本阿弥光悦と前田家

前田育徳会尊經閣文庫分館

琳派 様々な表現

第3展示室

特集展示

鴨居 玲 — 蠶く —

うごめ



蜘蛛の糸

今回の特集では、鴨居の人物作品を主体に遺愛品を加えて構成いたしました。単一像や複数の人物像の多くは、キャンバスの中心を避けて配置され、不安定な動感と緊張感を演出しています。群像では「静止した刻」や「一九八二年私」のように、一対多という構図も見られます。前者はキリストの最後の晚餐図でよく描かれる、キリストと使徒たち、あるいはユダと他の使徒たちの構図を参考にしたものといえます。興味深いのは男たちの視線が合み合わないことです。同じものを見ているようで違うのです。仲間のように実は一人。孤独な存在が描かれています。さて、今回は初出の資料と作品を紹介します。鴨居が酔って酩酊して書いた遺書と思われるもの、そして、金沢美大を卒業してしばらくした頃の神戸時代に、婚約者に頼まれて制作した絵皿、ぜひご覧ください。

十月前半の展覧会

9月13日(金)～10月14日(月・祝) 会期中無休

コレクション展示室 特集展示

今回の特集展示で陳列している作品は、秋草の意匠がほどこされていますが、中には、複数の植物が表現されているものもあります。たとえば、明治時代に制作された《赤絵金彩八珍果蓋物》には、蓋と身の側面に八珍果という伝統的な画題が描かれています。これは明治十二年から二十四年にかけて、加賀で運営された九谷陶器会社で作られたといわれる作品で、金彩と赤絵の表現がこの時代の九谷の作風の特徴をよく示しています。

八珍果とは、古来珍重されていた八種の果実のことで、『東洋畫題綜覧』によれば、枇杷・桃・楊梅・杏・李・荔枝・柿・銀杏の八種を指します。本作には、右の図のように豊かに実った果実が、生き生きとした筆致で表現されています。



今回の特集展示では近現代の日本画と

あわせて、大正から昭和初期に興隆した、いわゆる「新版画」と呼ばれる近代版画も展示しています。「新版画」は浮世絵版画に対しての呼び名で、「絵師」「彫師」「摺師」の分業体制に代表される浮世絵の木版技術を結集して、新たな芸術を生み出そうとしたものです。テーマも風景、花鳥そして美人などが選ばれ、画面からは大正昭和期の風俗がリアリティを持って迫ってきます。美人画に見る女性の表情も、浮世絵に見られた瓜実顔の類型的な美人から、写実性を加味した独特な色香が漂っています。

これらは、すべて久世重勝氏の三千点にのぼる浮世絵コレクションと共に一括して寄贈されたものです。大正ロマン薫る女性美をご堪能ください。



伊藤深水 初夏の浴

第6展示室

特集展示

日本画 女性美十色

第5展示室

特集展示

工芸品にみる秋草



キッズプログラム

夏休み親子体験講座・鑑賞講座



猛暑といわれた今年の夏ですが、毎年恒例の夏休みの制作体験講座では、たくさんのお小学生親子の方が熱心に制作に取り組みました。八月一日開催の全学年対象の「かえっこアート」は、色紙を好きな形に切って親子で交換し、もらった形が何に似ているか考えてカードを作るといった発想を楽しむ活動です。子どもや大人ということだけでなく年齢を問わず取り組むことができる活動で、他の方の発想にも納得したり驚いたりという楽しみも体験していただきました。八月二日開催の高学年対象の「沈金でマイはし箱」は、工芸王国といわれる石川県で工芸を身近に感じて頂いた講座となりました。はし箱に沈金のみで彫るといった作業は簡単ではありませんが、それが出来た時の満足感にもつながったようです。八月五日開催の低学年対象の「ミニ屏風をつくらう」は、保護者の方が屏風本体、お子さんが絵を担当する親子合作の作品づくりです。それもなかなかない機会と好評で、親子で夏休みの思い出の一コマにして頂きました。

また、夏休み向けの子ども用展示室の鑑賞講座の方は、「みる・きく・かたろうくんになるう」を開催しました。作品をよくみてもらうためのクイズや、作品からの音や声を感じてもらおうワークシートなどアートゲームで楽しく鑑賞して頂きました。県外からの観光客や帰省のお客様もご参加くださり、これも夏休みならではの講座になりました。



百万石の文化講座開講します

平成二十一年より、前田育徳会や尊経閣文庫を広く知っていただくために開講した「百万石の文化講座」。同封したお知らせの通り、今年は全三回の予定で、三名のスペシャリストに講演していただきます。第一講は左記の十月行事予定をご覧ください。

今年のミュージアムウィークは

今年も兼六園周辺文化の森では九月二十九日(日)から十月六日(日)まで「アートの秋を感じよう！心色づく八日間」と銘打ち、ミュージアムウィークが設定されます。当館を始め、歴史博物館、能楽堂などの文化施設では講演会や茶会、ミニコンサートなど盛りだくさんの行事が予定されています。また本多の森公園では、例年好評の文化の森カフェや、県内各地の民俗芸能の講演も予定されています。※詳細は前号に同封のチラシをご覧ください。

◆特別講演

日時／十月五日(土) 十三時三〇分～十五時 会場／美術館ホール

「皴の軌跡」

講師 師・木下 晋(画家・金沢美術工芸大学大学院教授)

申込み:不要(当日先着二〇〇名)

問合せ:石川県立美術館 TEL / 076-1225-11371

十月の行事予定

■土曜講座	午後1時30分	美術館講義室	聴講無料
12日(土)	琳派再検証―琳派とは何だったのか―	村瀬博春 担当課長	
19日(土)	よくわかる日本画3つくりゆく女性美	前多武志 学芸専門員	
■特別講演	午後1時30分	美術館ホール	聴講無料
5日(土)	皴の軌跡 木下晋(画家・金沢美術工芸大学大学院教授)		
■百万石の文化講座	午後1時30分	美術館ホール	聴講無料
13日(日)	芳春院まつと尊経閣文庫 瀬戸薫氏(富山高等専門学校教授)		

※十月六日・十三日の日曜日、午前十一時から「俵屋宗達と琳派」ギャラリートークを行います。(展覧会観覧料が必要です)

大場 松魚 おおば・しょうぎよ 幅94cm × 奥行35cm × 高59.3cm



作者は、金銀の薄板を文様の形に切り、漆面に貼ったものを研ぎ出すか剥ぎ出すかして表現する平文の技法に秀で、華やかで力強い作品を生み出しました。

本作は、昭和四十年代後半から五十年代半ばにかけて、日本伝統工芸展に棚の大作を精力的に発表していた時期の優品です。棚の中央部分の厨子の四面に、風に揺らぐ晩秋の薄を大胆に配し、漆黒地に洗練された金平文の線を美しくなびかせています。同一平面上に貼り付けられた金線は、長さや間隔を微妙に変えて交差させ、装飾的でありながらも奥行きを感じさせます。また、穂先には粗めの金平目粉を蒔きつけ、逆光に輝いているかのような印象を与え、さらに薄の間には夜露としての真珠、側面には平文で鈴虫をさりげなく置くことで、より一層、秋の風情をかもし出しています。このように、大作でありながらも隅々まで心をめぐらして制作されたこの作品は、簡潔で力強く、かつ優美な世界を作り上げることに成功した作者会心の作といえるでしょう。

大場松魚氏は、大正五年、金沢市に生まれました。昭和八年に石川県立工業学校図案絵画科を卒業。父・宗秋、松田権六に師事しています。日展、のちに日本伝統工芸展で活躍し、五十七年、蒔絵で重要無形文化財保持者に認定されました。また、金沢美術工芸大学教授、石川県輪島漆芸技術研究所所長として後進の育成にも尽力しました。日本工芸会参与。

次回の展覧会

会期：
11月20日(水)
～12月15日(日)

前田育徳会 尊經閣文庫分館		第2展示室	第3展示室	ご利用案内	
名物裂と遊戯具		大乗寺の文化財	木版の美	コレクション展観覧料 一般 350円(280円) 大学生 280円(220円) 高校生以下 無料 ※()内は団体料金 毎月第1月曜日はコレクション 展示室無料の日(10月は7日)	
第4展示室	第5展示室	第6展示室	企画展示室	今月の開館時間 午前9:30～午後6:00 カフェ営業時間 午前10:00～午後7:00 年中無休	
銅像	明治の工芸	ふれる美術	第60回 日本伝統工芸展金沢展 会期: 10月25日(金) ～11月3日(日・祝)	10月の全館休館日 15日(火)～17日(木)	

毎週水曜日は
Meiカード ポイント
プラスデー

Meiカード
通常ポイント + 3%
ポイントプラス

※催事場、地産食品売場などご奉仕品は、通常通りのポイントとさせていただきます。詳しくは売場係員におたずねください。

MEITETSU
MIZA
めいてつ・エムザ
金沢・むさしが辻 TEL代表(076)260-1111
http://www.meitetsumza.com/
10時～20時 ●地階レストラン街・書籍は21時まで

石川県立美術館だより
第360号(毎月発行)
2013年10月1日発行
〒920-0963
金沢市出羽町2番1号
Tel: 076(231)7580
Fax: 076(224)9550
URL: http://www.ishibi.pref.ishikawa.jp/